

## 月6,100万人が利用する 飲食店検索サイト「ぐるなび」の 不正ログインを防ぐ。



株式会社ぐるなびは、“日本発、世界へ”を企業理念に掲げ、「食」に繊細なこだわりを持つ国民性を生かした、日本ならではのオリジナリティあふれるビジネスを展開しています。  
1,718万人※の会員数を誇る日本最大級の飲食店検索サイト「ぐるなび」の不正ログイン対策として、「CappyパズルCAPTCHA」をログイン画面に採用いただいています。

※2019年4月1日時点の会員数



岡本 拓磨氏  
開発部  
開発第4グループ  
グループ長

### ネット予約プラットフォーム の強化と送客の極大化

「ぐるなび」について伺えますか。

Q. 2018年7月に楽天との資本業務提携が発表されましたが、ぐるなびの変化について伺えますか。

A. もともと、ぐるなびと楽天の事業への想いには共通する点が多く、また、店舗へのサポート面についてもそれぞれ共有できる豊富な独自ノウハウがあります。

資本提携後、社内に楽天との様々な共同プロジェクトが立ち上がりました。強みとする部分がそれぞれ異なるため、両社の特徴を活かしながら最大限にシナジー効果を発揮し、店舗サポートのさらなる充実と送客の拡大を目指しています。

また、より具体的な変化としましては、国内最大規模のユーザを持つ楽天とのID連携数も目標を上回り、ぐるなび会員の増加に大きく寄与しました。その結果、ネット予約数も毎月前年比120%~140%以上と送客に大きく貢献しています。

その他にも、ここではまだ言えませんが、様々な取り組みが進行中ですので、今後加盟店様への送客アップという結果に繋がることと思います。

Q. 多くのユーザがアクセスするぐるなびですが、不正ログイン対策について伺えますか。

A. ユーザの登録情報や保有するポイント、また、一部提供する有料サービスを守るためにも不正ログイン対策は重要です。

3年ほど前からパスワードリスト攻撃による不正ログイン被害が他社のウェブサービスで目立つようになったことから、自社サイトの対策強化を行いました。対策にあたり、ゆがんだテキストを入力する文字認証や、Google reCAPTCHAの検討もしましたが、最終的にCappyパズルCAPTCHAを選択。検討して3ヵ月後には実装を終えて、CappyパズルCAPTCHAの利用開始ができました。

また、ぐるなびポイントの楽天での利用や、他ポイントへの交換など、ポイント活用が流動的になりユーザの利便性が向上。



# ぐるなび

名称 株式会社ぐるなび  
本社所在地 〒100-0006  
東京都千代田区有楽町1-2-2  
東宝日比谷ビル  
代表者 代表取締役社長 杉原 章郎  
設立日 2000年2月29日(株式会社ぐるなび発足)  
資本金 2,334百万円(2019年6月30日現在)  
事業内容 パソコン・スマートフォン等による飲食店等の情報提供サービス、飲食店等の経営に関わる各種業務支援サービスの提供その他関連する事業



宴会・グルメ情報検索サイト「ぐるなび」のトップページと、加盟店、会員情報等

総有料加盟店舗数	59,660店 (2019年3月末)
月間ユニークユーザ数	6,100万人 (2018年12月現在)
ぐるなび会員数	1,718万人 (2019年4月1日現在)



その一方で、ポイントの不正取得を目的とした攻撃リスクが高まることを意識して対策に取り組んでいます。

一般的に、セキュリティとユーザビリティはトレードオフになる面が多々ありますが、CapyパズルCAPTCHAでは、ユーザが直感的に理解しやすいパズルを使う手法により、認証のハードルを下げ、結果として離脱率の低下に役立つと考えています。特にスマートフォンなどの小さな画面ではその効果は大きいと思います。

## お客さまの利便性と不正ログイン対策の両立

### 今後の対応について伺えますか？

Q. インバウンド需要増加の影響はありますか。

A. ぐるなびは飲食店への送客サポートを主軸とするため、増加する訪日外国人の送客についても注力しています。ぐるなび外国語版では、Wi-Fiスポットの表示や観光向けレコメンドを追加するなど、訪日観光客を意識したコンテンツの提供と、ロケーションに紐付き、店舗への送客を最大化する仕組みを取り入れています。

セキュリティ面では、不正アクセスの攻撃元IPアドレスの多くが国外であることから、本来であれば国内からのアクセスに制限することで多くの攻撃を遮断することができます。しかし、それでは来日前にお店を探したい方々も弾いてしまいます。

インバウンド需要を取りこぼさないためにも、CapyパズルCAPTCHAにより国外

のグレーなIPアドレスだけパズルの難易度を上げるなど、利便性を損なわずセキュリティを担保できる仕組みもあると提案してもらっているのです。導入の検討を進めています。

Q. Capyのサービスについてのご感想を伺えますか。

A. 国内企業による自社開発サービスということで、豊富な国内情報の蓄積や、業界を横断した対策を取れる点が最も大きな差別化ポイントだと感じています。

海外情報をベースとするサービスでは、海外からのアクセスへの対策としては有効ではあるものの、残念ながら日本に特化はしていません。ぐるなびの大きな特徴である「訪日後に国内でご利用いただく」というシチュエーションだと、やはり国内の情報の蓄積が多ければ多いほどより効果的な対策の実行につながると思います。

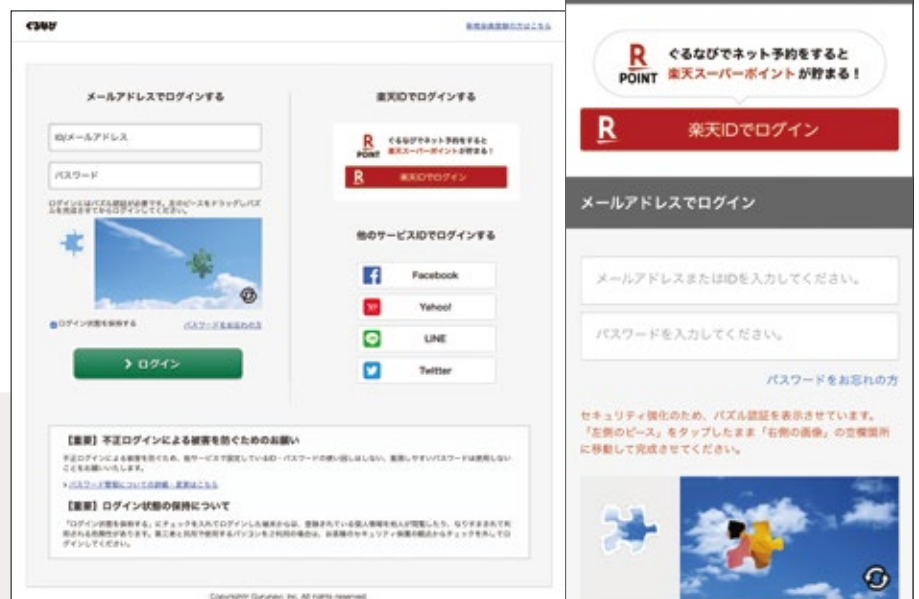
また、Capyリアルタイムブラックリストでは、自社サービスで収集される攻撃者のIPアドレスなどの情報をリアルタイムに反映した攻撃者データベースにより、国内で発生した同業他社への攻撃を自社の防御に

役立てられる点も魅力だと伺いました。今後のサービスリリース時に試してみたいですね。

Q. 最後に、今後のサービスへのご期待について伺えますか。

A. ユーザの利便性とセキュリティについて追求していくと、ピンポイントでパズルを出したいケースや、グレーなアクセスに限定してパズルを出す仕組みの必要性を感じる場面があります。そのようなニーズにさらに柔軟に対応可能なサービスへの期待があります。

その一方、Capy独自のCAPTCHA方式は、やはりユーザにとって理解しやすく使いやすいユーザビリティを備えた認証だと思えますので、より一層の機能向上に加え、管理画面やレポート機能などのサポート側の仕組みの改善など、さらに安心、便利に利用できるサービスとしてレベルアップし続けてくれることを期待しています。



ぐるなびログインページで使用される  
CapyパズルCAPTCHA (PC、スマートフォン)